

AnyTran 各エディション比較

機能について

機能	概要/種類	AnyTran	AnyTran LE (2020/3/31 販売終了)	AnyTran Desktop
バージョン		7.0.0	4.12.2	7.0.0
サポートする 文字コード	Shift_JIS	○	○	○
	JISコード	○	○	○
	EUC-JP	○	○	○
	IBM漢字	○	○	○
	JEF	○	○	○
	KEIS	○	○	○
	JIPS(E)	○	○	○
	ASCII + IBM漢字	○	○	○
	EBCDIC + JISコード	○	○	○
	UNISYS漢字 (LETS-J)	○	×	○
	UNISYS漢字 (JBIS)	○	×	○
	UTF-8	○	○	○
	UTF-16 (BE / LE)	○	○	○
	Shift_JIS-2004	○	×	○
ISO-2022-JP-2004	○	×	○	
EUC-JIS-2004	○	×	○	
サポートする EBCDICタイプ	カナ	○	○	○
	US	○	○	○
	日立	○	○	○
	NEC	○	○	○
	IBM CCSID 290	○	○	○
	IBM CCSID 1027	○	○	○
	MCPV1	○	×	○
	MCPV24	○	×	○
JIS X 0213:2004対応	JIS X 0213:2004の符号化方式 ISO-2022-JP-2004/Shift_JIS-2004 /EUC-JIS-2004 及び Unicode 間で、相互に文字コードを変換	○	×	○
Unicodeのサロゲートペア対応	JIS X 0213:2004 の 2 面の文字の一部 (約 300 文字) を表現する Unicode のサロゲートペアに対応	○	×	○
対応フォーマット	CII (JIS-X7012: EIAJ, JPCA, HWSW, JTRN 等)	○	○	○
	UN/EDIFACT (JEDICOS, JAMA-JAPIA 等の各種サブセット含む)	○	○	○
	ANSI X12	○	×	×
	XML (流通BMS, ECALGA, RossetaNet, CEDI 等)	○	○	○
	CIF (ACSN)	○	○	○
	CSV	○	○	○
	データベースフォーマット	○	×	×
	固定長形式 (ブラネット, JD-NET, E-VAN 等)	○	○	○
可変長形式	○	○	○	
マルチレイアウトファイル変換	複数種類のレコードで構成されるファイル (ヘッダ, 明細, トレーラ形式等) の変換や作成	○	○	○
レコードの種類	実レコードの出力は行わない「計算用レコード」	○	×	○
	他レコードの出力にて自身の出力可否を判断する「見出しレコード」	○	×	○
レコードの最大長	32,767バイト対応	○	○	○
	10,000,000バイト対応	○	×	○
レコードグループの種類	選択	○	○	○
	順不同	○	○	○
項目グループの最大ループ回数	振り分けグループ	○	×	○
	9,998回対応	○	○	○
項目タイプの種類	99,999回対応	○	×	○
	漢字IN状態で文字を解釈する「漢字文字列」	○	○	○
数値表現	バック形式の数値を扱える「バック仮想小数」「符号なしバック」「BCD整数」	○	○	○
	ゾーン形式の数値を扱える「ゾーン整数」「ゾーン仮想実数」	○	○	○
	文字コード変換の影響を受けない「バイナリ列」	○	○	○
ANY標準関数	数値書式として桁区切り(3桁カンマ区切り)に対応	○	×	○
	通貨記号として円(¥)とドル(\$)に対応	○	×	○
探番機能	文字列操作や数値操作等を行う関数の提供	○	○	○
統計カウンタ	1つの変換内でシーケンス番号を採番する「インクリメントカウンタ」	○	○	○
	複数の変換内で一意のシーケンス番号を採番する「ユニークナンバー」	○	○	○
ユーザ定義関数	レコード件数や特定項目の合計値/平均値/最大値/最小値 等を求めるカウンタ機能	○	○	○
	ユーザが独自に作成した関数の組み込み	○ (Java)	○ (C++)	○ (Java)
メモリ使用量低減機能	特定単位でファイルの読み書きを行う「読み単位」	○	○	○
	必要時以外はデータをメモリに配置しない「メモリ抑制グループ」	○	×	○
マスタ参照	キー、バリュー形式のマスタファイルを扱える「変換テーブル」	○	○	○
	特定条件でファイルを検索する「レコード検索」	○	○	○
	より複雑な条件でファイルを検索できる「拡張レコード検索」	○	○	○
データベース検索定義	より複雑な条件でファイルを検索できる「拡張レコード検索」	○	○	○
	SQL文を必要としないシンプルな「データベース検索定義」	○	×	×
データベース検索定義	SQL文を記述してより複雑な検索が可能な「拡張データベース検索定義」	○	×	×
	SQL文を必要としないシンプルな「データベース検索定義」	○	×	×
インポート/エクスポート機能	IDOC書式インポート	○	×	×
	COBOL書式インポート	○	○	○
	ANY標準形式インポート	○	○	○
	ANY標準形式レコードインポート	○	○	○
	ANY標準形式エクスポート	○	○	○
	XML DTD書式インポート	○	○	○
	XMLスキーマインポート	○	○	○
	XMLスキーマエクスポート	○	○	○
XMLデータインポート	○	○	○	
アシストファイル	入力側にマスタ情報ファイル等の変換を支援するファイルを定義可能	○	×	×
XML妥当性検証機能	XML スキーマを利用してXML データの妥当性を検証	○	×	×
定義体出力	変換定義情報をファイルに出力する機能	○ (Excel)	○ (CSV)	○ (Excel)

AnyTran 各エディション比較

環境について

	概要/種類	AnyTran	AnyTran LE (2020/3/31 販売終了)	AnyTran Desktop
バージョン		7.0.0	4.12.2	7.0.0
稼働環境 (OS)	マップパー (AnyMapper)	Windows 11 Home / Pro / Enterprise Windows 10 Home / Pro / Enterprise Windows Server 2022 Standard / Datacenter Windows Server 2019 Standard / Datacenter Windows Server 2016 Standard / Datacenter *1、*2、*3	Windows 10 Home / Pro / Enterprise Windows Server 2019 Standard / Datacenter Windows Server 2016 Standard / Datacenter *1、*2、*3	Windows 11 Home / Pro / Enterprise Windows 10 Home / Pro / Enterprise *1、*2、*3
	変換エンジン	Java実行環境は、JavaベンダーのLTS(Long Term Support)版JDKに対応します。また、JDK 8 は32ビット版と64ビット版、JDK 11 以降は64ビット版に対応しています。 OSとJDKの対応状況は、OSまたはJDKのベンダー公式サイトでご確認ください。 ■JDK 8 Oracle Java SE 8 (Linux, Windows, Oracle Solaris (SPARC)) Red Hat OpenJDK 8 (Linux) Amazon Corretto 8 (Linux, Windows) Azul Systems Azul Platform Core 8 (Linux, Windows) IBM Semeru Runtime 8 (Linux, Windows) Adoptium Eclipse Temurin 8 (Linux, Windows) FUJITSU Software Interstage Application Server V12 同梱JDK FUJITSU Software Interstage Application Server V13 同梱JDK IBM SDK Java Technology Edition HP-UX 11i Java ■JDK 11 Oracle Java SE 11 (Linux, Windows, Oracle Solaris (SPARC)) Red Hat OpenJDK 11 (Linux) Amazon Corretto 11 (Linux, Windows) Azul Systems Azul Platform Core 11 (Linux, Windows) IBM Semeru Runtime 11 (Linux, Windows) Adoptium Eclipse Temurin 11 (Linux, Windows) Microsoft Build of OpenJDK 11 (Linux, Windows) ■JDK 17 Oracle Java SE 17(Oracle Solaris(SPARC),Linux, Windows) Red Hat OpenJDK 17 (Linux) Amazon Corretto 17 (Linux, Windows) Azul Systems Azul Platform Core 17 (Linux, Windows) IBM Semeru Runtime 17 (Linux, Windows) Adoptium Eclipse Temurin 17 (Linux, Windows) Microsoft Build of OpenJDK 17 (Linux, Windows) ■JDK 21 Oracle Java SE 21 (Oracle Solaris(SPARC),Linux, Windows) Red Hat OpenJDK 21 (Linux) Amazon Corretto 21 (Linux, Windows) Azul Systems Azul Platform Core 21 (Linux, Windows) IBM Semeru Runtime 21 (Linux, Windows) Adoptium Eclipse Temurin 21 (Linux, Windows) Microsoft Build of OpenJDK 21 (Linux, Windows) ■OS Windows Server 2022 Standard / Datacenter Windows Server 2019 Standard / Datacenter Windows Server 2016 Standard / Datacenter Red Hat Enterprise Linux Amazon Linux 2 Amazon Linux 2023 Oracle Linux MIRACLE LINUX 8.4 以降 IBM AIX * Oracle Solaris (SPARC) * HPE HP-UX * IBM i (旧i5/OS,OS/400) * * OSメーカーのJDK 8の利用が前提です。	Windows Server 2019 Standard / Datacenter Windows Server 2016 Standard / Datacenter Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter Windows Server 2012 Standard / Datacenter *1	Java実行環境は、JavaベンダーのLTS(Long Term Support)版JDKに対応します。また、JDK 8 は32ビット版と64ビット版、JDK 11 以降は64ビット版に対応しています。 OSとJDKの対応状況は、OSまたはJDKのベンダー公式サイトでご確認ください。 ■JDK 8 Oracle Java SE 8 Azul Systems Azul Platform Core 8 IBM Semeru Runtime 8 Adoptium Eclipse Temurin 8 ■JDK 11 Oracle Java SE 11 Azul Systems Azul Platform Core 11 IBM Semeru Runtime 11 Adoptium Eclipse Temurin 11 ■JDK 17 Oracle Java SE 17 Azul Systems Azul Platform Core 17 IBM Semeru Runtime 17 Adoptium Eclipse Temurin 17 ■JDK 21 Oracle Java SE 21 Azul Systems Azul Platform Core 21 IBM Semeru Runtime 21 Adoptium Eclipse Temurin 21 ■OS Windows 11 Home / Pro / Enterprise Windows 10 Home / Pro / Enterprise
稼働環境(その他)	クラスタ環境	○	×	×
	FT (Fault Tolerance) 環境	○	×	×
	クラウド環境	○	○	×
	仮想環境	○	○	×
表示言語	AnyMapper の日本語/英語の選択	○	○	○
並列実行	複数変換の並列実行の可否	○	×	×
常駐化機能	変換エンジンをメモリ上に常駐化させる常駐化プログラムの有無	○	×	×
コード変換ユーティリティ (CodeConv)	文字コード変換のみを行うユーティリティの有無	○	○	○

*1:64ビット版OSでは、32ビット互換モード(WOW64)で動作します。
*2:モダンUI及びタッチパネル操作には対応していません。
*3:英語OS+日本語版パッケージでの動作は保証していません。